

横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年8月)

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症が幅広い年齢層で多く報告されています。
- インフルエンザの患者報告数が増加し、例年より1か月半程度早い流行期入りとなっています。
- 梅毒をはじめとした性感染症の報告が増加しています。

◇ 全数把握の対象 <2026年7月20日～2026年8月23日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	1件	急性脳炎	1件
腸管出血性大腸菌感染症	23件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
A型肝炎	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
エムボックス	2件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	7件	梅毒	28件
ウイルス性肝炎	2件	百日咳	12件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5件		

1. **細菌性赤痢**:30 歳代、病型は sonnei(D 群)、感染経路は経口感染です。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10 歳未満～80 歳代で、O 血清群は O157 が 13 件、O26 が 2 件、O111 が 2 件、O103 が3件、O146 と Og150 がそれぞれ 1 件、不明が 2 件です。無症状病原体保有者は 11 件です。感染経路等は経口感染と推定される報告が 7 件、接触感染と推定される報告が 1 件、不明が 15 件です。
3. **E 型肝炎**:60 歳代と 70 歳代で、感染経路は経口感染と推定される報告が1件、不明が1件です。
4. **A 型肝炎**:20 歳代～50 歳代で、感染経路等は経口感染と推定される報告が 3 件、そのうちの1件は性的接触もあります。3 件ともワクチン接種歴はありません。
5. **エムボックス**:20 歳代と 30 歳代で、感染経路等はどちらも接触感染と推定される報告です。
6. **デング熱**:20 歳代、病型はデング熱です。感染経路等は蚊からの感染と推定されます。
7. **レジオネラ症**:40 歳代～90 歳代で、病型は肺炎型が 5 件、ポンティアック熱型が1件です。感染経路等は水系感染と推定される報告が 4 件、不明が 2 件です。
8. **アメーバ赤痢**:20 歳代～70 歳代で、感染経路等は経口感染と推定される報告が 6 件、不明が 1 件です。
9. **ウイルス性肝炎**:20 歳代と 30 歳代で、どちらも病型は B 型、感染経路等は不明、ワクチン接種歴も不明です。
10. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70 歳代～80 歳代で、感染経路等はいずれも推定ですが、医療器具関連感染1件、院内感染1件、その他の報告が 1 件、不明が 2 件です。
11. **急性脳炎**:70 歳代で病原体は不明です。感染経路等は接触感染と推定されます。
12. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:50 歳代と 70 歳代で、血清型は A 群と G 群、感染経路等は 2 件とも不明です。
13. **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:30 歳代～50 歳代で、病型は AIDS が 2 件、その他が 1 件、無症状病原体保有者が 1 件で、感染経路等は性的接触(同性間)が 3 件、性的接触(詳細不明)が 1 件です。
14. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70 歳代と 90 歳代で、感染経路等はいずれも推定ですが、飛沫・飛沫核感染が1件、接触感染が1件です。ワクチン接種歴は無しが1件、不明が1件です。
15. **侵襲性髄膜炎菌感染症**:60 歳代で、感染経路等は不明、ワクチン接種歴も不明です。
16. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10 歳未満～80 歳代(ワクチン接種歴、無 2 件、不明 2 件)で、感染経路等は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が 2 件、そのうち 1 件は接触感染もあり、不明が 2 件です。
17. **水痘(入院例に限る)**:70 歳代と 80 歳代で、2 件とも臨床診断例で、感染経路等は不明です。
18. **梅毒**:10 歳未満～70 歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期 5 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 15 件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者が 7 件です。感染経路等は性的接触による感染と推定される報告が 21 件(異性間 14 件、同性間 4 件、詳細不明 3 件)、不明の報告が 7 件です。
19. **百日咳**:10 歳未満～60 歳代(ワクチン接種歴 4 回 1 件、3 回 1 件、不明 10 件)で、感染経路等はすべて不明です。

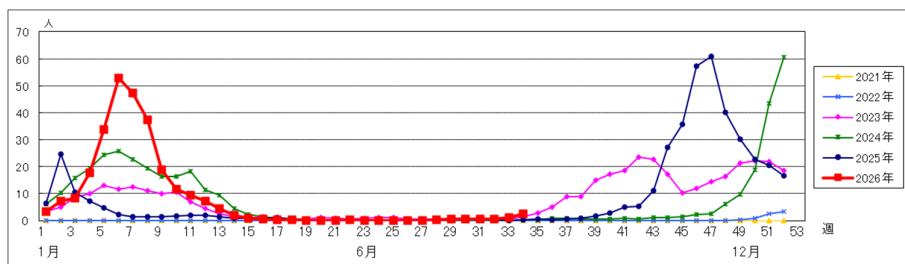
◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2026年第30週	7月20日～7月26日
第31週	7月27日～8月2日
第32週	8月3日～8月9日
第33週	8月10日～8月16日
第34週	8月17日～8月23日

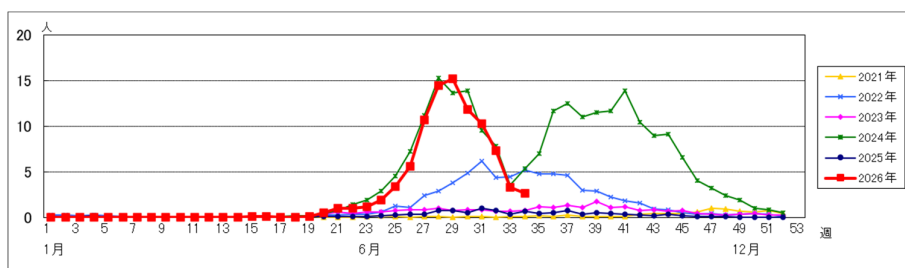
1 インフルエンザ

2026年第33週(8月10日～8月16日)に1.17となり、流行期入りの目安となる1.00を超えました。第34週は2.53で、幅広い年齢層で患者が報告されています。



2 手足口病

2026年は第26週(6月22日～6月28日)に5.56となり、2024年以来の流行警報レベルとなりました。第29週(7月13日～7月19日)には15.18まで上昇しましたが、以後減少傾向で、第34週は2.62です。



3 性感染症(2026年7月)

性器クラミジア感染症	男性:36件	女性:25件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:26件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:33件	女性:0件	淋菌感染症	男性:17件	女性:5件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.50	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.50	1.25	1.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2026年7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
-------------------	-----	----------------	----

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5 か所、ARI 定点:4 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院)定点:4 か所の計 14 か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI 定点と ARI 定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2026 年第 30 週～第 34 週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点 86 件、小児科定点 3 件、定点外医療機関からは 3 件でした。

8 月 26 日現在、表に示した各種ウイルスの総数 78 件(うち分離総数 4 件)が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2026 年第 30 週～第 34 週)

診断名	検出・分離ウイルス	総数	うち分離数
ARI	ライノウイルス	14	
	ライノウイルスまたはエンテロウイルス	6	
	パライフルエンザウイルス 1型	6	
	パライフルエンザウイルス 2型	1	
	パライフルエンザウイルス 3型	6	
	パライフルエンザウイルス 4型	2	
	ヒトメタニューモウイルス	15	
	コクサッキーウイルス A6型	4	
	アデノウイルス 型未同定	3	
	アデノウイルス 2型	2	2
	SARS コロナウイルス 2 (新型コロナウイルス)	4	
	インフルエンザウイルス A型	1	
	インフルエンザウイルス AH1pdm09	2	2
	エンテロウイルスD68型	1	
	RS ウイルス	7	
手足口病	コクサッキーウイルス A6型	2	
ヘルパンギーナ	パライフルエンザウイルス 3型	1	
けいれん重積型急性脳炎	パレコウイルス 1型	1	
合 計		78	4

【 検査研究課 微生物(ウイルス医動物)担当 】

〈細菌検査〉

2026 年第 30 週～第 34 週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症 24 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 3 件、侵襲性肺炎球菌感染症 3 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 2 件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からコクシジオイデス症(フォローアップ)2 件、ライム病疑い 4 件、細菌性髄膜炎疑い 2 件、レジオネラ症 3 件、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 件でした。病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1 件、感染性胃腸炎 1 件、「ARI 定点」から 6 件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2026 年第 30 週～第 34 週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等			
保健所		腸管出血性大腸菌感染症	24	O157:H7 VT2	(6)		
				O157:H7 VT1VT2	(2)		
				O157:H- VT2	(1)		
				O26:H11 VT1	(4)		
				O103:H2 VT1	(4)		
				O111:H- VT1	(2)		
				Og156:Hg25 VT1	(2)		
				Og150:Hg10 VT2	(1)		
				Og8:Hg19 VT2	(1)		
				OgUT:Hg20 VT2	(1)		
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	(1)		
				G群溶血性レンサ球菌	(1)		
				カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	<i>Escherichia coli</i>	(2)
						<i>Enterobacter cloacae</i> complex	(1)
						侵襲性肺炎球菌感染症	3
<i>Streptococcus pneumoniae</i> 19A型	(1)						
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能	(2)		
分離同定		項目	検体数	材料	同定、血清型		
保健所		コクシジオイデス症(フォローアップ)	2	血清	抗コクシジオイデス抗体価 陰性 (2)		
		ライム病疑い	4	痂皮 血清 全血	ライム病ボレリア、回帰熱ボレリア PCR 陰性 (2) (1) (1)		
		細菌性髄膜炎疑い	2	髄液 血清	16S rRNA 遺伝子 陰性 (1) (1)		
		レジオネラ症	3	喀痰	レジオネラ属菌 培養 陰性 (3)		
		侵襲性髄膜炎菌感染症	1	髄液	髄膜炎菌 培養 陰性 (1)		
小児科サーベイランス		材料	診断名	検体数	同定、血清型等		
小児科定点	咽頭ぬぐい液	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	A群溶血性レンサ球菌 T6型	(1)		
	直腸ぬぐい液	感染性胃腸炎	1	胃腸炎起因菌 培養 陰性	(1)		
ARIサーベイランス		材料	診断名	検体数	同定、血清型等		
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	6	A群溶血性レンサ球菌 培養陰性	(5)		
				肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性	(5)		
				肺炎マイコプラズマ遺伝子 陽性	(1)		
				百日咳菌遺伝子 陰性	(6)		
				百日咳菌 培養陰性	(5)		

【 検査研究課 微生物(細菌)担当 】